

第五十三師團兵器勤務隊
部隊略歴

年月日	概	要
昭八、二、一九 二、二一	臨時動員下令 特別部隊として京都に於て編成	
一八、三、二一 九、一、一五	動員担任部隊 第五十三師團野砲兵隊五十三連隊 待命箇(出師準備)	
九、一、一六	部隊主力京都出發 山本准尉以下二十名後發隊として残留す (編成表左記通)	
	修理小隊 指揮班 一分隊 一分隊 二分隊	兵准尉 伍長 一等兵 一等兵 二等兵 二等兵 一等兵 一等兵 二等兵 二等兵 上等兵 上等兵 一等兵 一等兵 二等兵 二等兵 上等兵 上等兵 一等兵 一等兵 二等兵 二等兵
	山本 北森 山中又次郎 松浦久郎 筒井 北村 北村	山本正輝 北森清 山中又次郎 松浦久郎 筒井治 北村幸一 北村幸一
	四分隊	四分隊
	森田三郎	森田三郎
	内賣九一郎	内賣九一郎
	小林清	小林清
	浅野武	浅野武
	吉岡健一	吉岡健一
	大槻一郎	大槻一郎
	前田每三郎	前田每三郎

<table border="1"> <tr> <td>機</td> <td>四</td> <td>分</td> <td>隊</td> <td>上</td> <td>等</td> <td>兵</td> <td>諸</td> <td>戸</td> <td>正</td> <td>明</td> </tr> <tr> <td>工</td> <td>〃</td> <td>〃</td> <td>〃</td> <td>〃</td> <td>〃</td> <td>〃</td> <td>近</td> <td>藤</td> <td>義</td> <td>輝</td> </tr> <tr> <td>車</td> <td>〃</td> <td>〃</td> <td>〃</td> <td>〃</td> <td>〃</td> <td>〃</td> <td>羽</td> <td>川</td> <td>諸</td> <td>〃</td> </tr> <tr> <td>一</td> <td>後</td> <td>清</td> <td>島</td> <td>水</td> <td>友</td> <td>矢</td> <td>久</td> <td>隆</td> <td>一</td> <td>〃</td> </tr> <tr> <td></td> <td>藤</td> <td>水</td> <td>田</td> <td>隆</td> <td>友</td> <td>矢</td> <td>久</td> <td>隆</td> <td>一</td> <td>〃</td> </tr> </table>	機	四	分	隊	上	等	兵	諸	戸	正	明	工	〃	〃	〃	〃	〃	〃	近	藤	義	輝	車	〃	〃	〃	〃	〃	〃	羽	川	諸	〃	一	後	清	島	水	友	矢	久	隆	一	〃		藤	水	田	隆	友	矢	久	隆	一	〃	<p>一九一八 部隊主力大阪港出發</p> <p>一九一九 部隊主力昭南港上陸</p> <p>二〇二五 昭南出發（部隊主力）</p> <p>二〇二六 「クアラランプール」へ（馬末到着）</p> <p>二〇二七 爾後の師団は同地附近に駐留、舊備部隊は兵器修理所を開設、主として兵器の試作作業に従事</p> <p>二〇二八 部隊主力は「クアラランプール」出發</p>
機	四	分	隊	上	等	兵	諸	戸	正	明																																														
工	〃	〃	〃	〃	〃	〃	近	藤	義	輝																																														
車	〃	〃	〃	〃	〃	〃	羽	川	諸	〃																																														
一	後	清	島	水	友	矢	久	隆	一	〃																																														
	藤	水	田	隆	友	矢	久	隆	一	〃																																														

~85~

1794

年月日

概

要

中島兵技少尉以下十三名引続き残留 (編成表左記の通り)

修理小隊長	兵中尉	中島康治	二分隊	兵二等兵	寺島省三
二分隊	兵單曹	若山助	〃	〃	森口清
〃	兵一等兵	岩永文夫	〃	四分隊	脊藤喜太郎
〃	二等兵	石川儀一	〃	〃	今西徳治
〃	兵二等兵	中村定男	〃	〃	猿木格也
〃	〃	北村幸一	〃	〃	忠田精一
二分隊	二等兵	西尾捨造	〃	〃	兵二等兵

昭五、四、四 馬萊国境通過 (部隊主力)

四、五 門司港出発 (後発隊山本准尉以下十八名)

吉岡大槻一等兵 (機工車一) は内地に残留

四、一、一 泰緬国境通過 (部隊主力)

四月十三日岡森二等兵「アマバー」性赤痢のため第百十八兵站病院「モールメ」分院に入院

四、一、四 「ピルマ固」シツタン」到着 (部隊主力)

尔後約二週間同地に於て師団主カ「シツタン」河渡河間師団通信隊長の指揮下

この内

ピルマ固

1795

四二六
四二七

に入り同河渡河点附近の防空警備
四月二十七日松本二等兵急性胃腸炎のため才百六兵站病院(ランブーン)に入院
「シツタン」出発(部隊主力)
「ペグー」到着(同)

部隊主力(編成表左記の通り)は同地に位置し後方処理機関に任ず
後方処理機関勤務員編成表
隊長 大尉 山本 茂雄

指揮班	主軍曹	加藤 種雄	三分隊	兵二曹兵	高橋 豊
〃	伍長	川村 英雄	四分隊	兵軍曹	宮川 良太郎
〃	衛伍長	辻野 健一	〃	兵兵長	福岡 慎一
〃	兵兵長	下坂 典	〃	兵二曹兵	早越 登
三分隊	兵上等兵	梶川 繁喜	〃	〃	喜多川 歳一
〃	兵一等兵	佐久間 勉	行李班	上等兵	山田 修一

四二八

主として通過部隊の宿泊給与並兵器弾薬・糧秣其の他諸物品の交付業務に従事す
部隊の一部(編成表左記の通り)は師団長直轄となり師団主力の「マンダレー」
方面前進に伴い同地に前進すべく「ペグー」出発 尔後兵器部長の指揮下に入
り左記の通り戦斗行動す

15
の
外

二
レ
マ
2

												年 月 日				
												概				
〃	〃	〃	〃	〃	二分隊	〃	〃	〃	一分隊	〃	〃		火工班	〃	指揮班	指揮班長
兵二等兵	二等兵	〃	兵一等兵	兵兵長	兵單曹	兵三等兵	〃	兵上等兵	兵兵長	〃	〃	兵二等兵	兵軍曹	兵上等兵	軍曹	曹長
島酒干吉	橋元正一	村田亮一	三谷信夫	橋本時和	熊野三郎	橋本剛	棟朝静	山下巖	宮西達次	加藤利男	片瀬一郎	谷口栄一	井上繁蔵	竹中節	山岸太吉	水瀬一男
												要				
〃	〃	〃	行李班	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃		〃	〃	三分隊	二分隊
〃	〃	一等兵	軍曹	兵三等兵	〃	〃	〃	〃	〃	〃	兵二等兵	〃	〃	上等兵	兵兵長	兵三等兵
江藤松	石河新	刀根武夫	五十嵐勝次	谷口与五郎	日置太美雄	伊藤清春	谷口猛郎	中田義雄	寺井清雄	和田秀雄	児川忠一	足立留吉	橋本善之丞	葉紫香取	秋野俊郎	

~88~

1797

軽修理車二 自動貨車二

五 一 昭南港上陸（後発隊）

五 三

水瀬曹長以下三十二名は師団命令に依り「インダウ」に集結す
ベグ「サガイン」出發途次敵機ノ銃惠に依り加藤一等兵負傷す

五月四日加藤一等兵兩側足背部挫創、前額部挫傷に依り「キヌ」患者收容所に
收容す

五月五日小林二等兵「パラチフス」（A型）に依り南方第三陸軍病院に入院

四 三九
五 一三

モール附近の戦斗

五 八

水瀬曹長以下「インダウ」に到着、尔後の兵器部長の指揮に依り「インダウ」
「ピンウエ」間の兵器、彈藥、燃料等の前送並「ピンウエ」「パーバン」
（戦斗司令所）間の局地輸送及同業積交付業務に従事す

五 一三

兵器部長指示に依り、四月十四日以降井上軍曹以下一部（編成表左記の通り）を、
現在任務履行の爲「ピンウエ」に残置、第四師団長（森高射砲隊長）の指揮を
受け「ホピン」戦斗司令所附近に前進す

年月日	概	要																																										
昭五、五、一三	昭南出發（後發隊）																																											
五一五	馬末國境通過（後發隊）																																											
五、二四	五月二十四日松本二等兵治應退院																																											
五、二五	兼細國境通過（後發隊）																																											
五、二六	「ホピン」(ナムクイン)附近の戦斗																																											
五、二六	「ナムクイン」(ホピン)西北方陣地攻略なるや水瀬曹長以下一部は師団命令に依り兵器部宗林大尉の指揮を受け同陣地附近の戦場掃除（兵器関係の蒐集）に任ず。																																											
	<table border="1"> <tr> <td>火工班</td> <td>兵單曹</td> <td>井上繁蔵</td> <td>三分隊</td> <td>上等兵</td> <td>橋本善之丞</td> </tr> <tr> <td>〃</td> <td>兵上等兵</td> <td>片瀬一郎</td> <td>〃</td> <td>〃</td> <td>足立留吉</td> </tr> <tr> <td>〃</td> <td>兵上等兵</td> <td>棟朝静</td> <td>〃</td> <td>〃</td> <td>尾川忠一</td> </tr> <tr> <td>二分隊</td> <td>兵單曹</td> <td>能野三郎</td> <td>〃</td> <td>兵上等兵</td> <td>谷口猛郎</td> </tr> <tr> <td>〃</td> <td>兵上等兵</td> <td>橋爪正一</td> <td>行李班</td> <td>〃</td> <td>日置太美雄</td> </tr> <tr> <td>〃</td> <td>兵上等兵</td> <td>富酒干吉</td> <td>〃</td> <td>一等兵</td> <td>刀根武夫</td> </tr> <tr> <td>〃</td> <td>〃</td> <td>秋野俊郎</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	火工班	兵單曹	井上繁蔵	三分隊	上等兵	橋本善之丞	〃	兵上等兵	片瀬一郎	〃	〃	足立留吉	〃	兵上等兵	棟朝静	〃	〃	尾川忠一	二分隊	兵單曹	能野三郎	〃	兵上等兵	谷口猛郎	〃	兵上等兵	橋爪正一	行李班	〃	日置太美雄	〃	兵上等兵	富酒干吉	〃	一等兵	刀根武夫	〃	〃	秋野俊郎				
火工班	兵單曹	井上繁蔵	三分隊	上等兵	橋本善之丞																																							
〃	兵上等兵	片瀬一郎	〃	〃	足立留吉																																							
〃	兵上等兵	棟朝静	〃	〃	尾川忠一																																							
二分隊	兵單曹	能野三郎	〃	兵上等兵	谷口猛郎																																							
〃	兵上等兵	橋爪正一	行李班	〃	日置太美雄																																							
〃	兵上等兵	富酒干吉	〃	一等兵	刀根武夫																																							
〃	〃	秋野俊郎																																										

の
の
内

ピ
ル
マ
ユ

~70~

六
五

五月二十八日森口二等兵赤痢に依り第百十八兵站病院「モールメン」分院に入
院す。六月四日岩永一等兵マラリヤ（熱帯熱）に依り第百六兵站病院に入院す。
「ペグー」到着（後発隊）

山本准尉以下十八名後発隊として行動中本日現在地に於て部隊主力に追及す。
六月十六日 岡森、森口二等兵治癒退院

六月二十一日 刀根一等兵マラリヤ（熱帯熱）に依り「インダウ」第百二十四
兵站病院に入院同日二十四日同病に依り同院にて戦病死

六月二十九日 森崎一等兵赤痢のため第百六兵站病院（ラングーン）に入院

五
二九
七
四

「モガウン」「ミットキーナ」附近の戦斗

部隊の一部は右両戦斗参加間、師団兵器弾薬の集積交付業務に従事す。

七
一八

部隊主力（隊長以下十四名）は七月上旬「ペグー」後方処理機関任務終了

（福岡兵長、松本二等兵は未着新車六十車輛交付準備並命令及地区交付の為、

「ペグー」に残留）未明「ピンウエ」に到着、日没時より隊長以下三名は師団

主力追及のため出発

中島少尉以下十一名現在地に於て井上軍曹以下七名と合し現在任務続行

七
五
八
三

「サーモ」附近の戦斗

~91~

年月日	概要
昭五.七.三	<p>隊長以下三名「タウンニール」(サーモ南方)に於て師団主力に追及現在地に於て水瀬曹長以下一部は本隊に合す。</p> <p>尚現在地に於て師団兵器弾薬の輸送並集積保管及之が交付業務に従事す。</p> <p>七月十四日谷口(猛)一等兵及橋爪一等兵「マラリヤ」のため第ニ師団第ニ野戦病院へナインピアへ入院し橋爪一等兵十七日以来行方不明。七月二十四日谷口(猛)一等兵「マラリヤ」に依り第ニ師団第ニ野戦病院に於て戦病死。</p> <p>七月二十六日江藤一等兵「ホピン」に於て敵機の機銃掃射を受け胸部貫通銃創に依り戦死。</p> <p>八月二十六日森崎一等兵治癒退院へラングーン第百六兵站病院へ。</p> <p>八月一日寺島一等兵大腸炎のため第百二十一兵站病院(明妙)へ入院。</p> <p>八月七日宮西兵長「アメバー」性赤痢兼脚気のため第百二十四兵站病院(インダウ)へ入院。</p> <p>八月七日忠田一等兵「アメバー」性赤痢のため第百二十四兵站病院(インダウ)へ入院翌八日同病に依り同院に於て戦病死。</p> <p>部隊主力は「タウンニール」出發師団命令に依り次期作戦準備のため「ピンウエ」(モール南方四軒)に転進。</p> <p>同地到着兵器弾薬の集積保管前送及之が交付並一部兵器修理所へ主として火砲</p>
八.三	
八.八	

銃器を開設修理業務に従事す。

八月十日竹中上等兵「マラリヤ」兼脚気のため第五十三師団第ニ野戦病院（ホピン）に入院、同日寺井上等兵日置一等兵「マラリヤ」のため第五十三師団第ニ野戦病院（ホピン）に入院

八月十六日、日置一等兵同病に依り同院に於て戦病死

八月十七日村田一等兵「マラリヤ」のため第五十三師団第ニ野戦病院（ホピン）に入院

八月二十日同病に依り同院に於て戦病死

八月二十一日佐久間一等兵「マラリヤ」兼脚気のため第五十三師団第ニ野戦病院（ホピン）に入院

同日小林一等兵治癒退院（南方第三陸軍病院「マライジョホール」）

山本准尉以下十四名（後方勤務者）は「ホピン」ウエに在る部隊主力に追及す。

九月三日寺島一等兵退院（第百三十一兵站病院「明妙」）

同日宮西兵長第百二十四兵站病院（インダウ）に於て「アメバー」性赤痢兼脚気に依り戦病死

同日橋本時兵長（マラリヤ三日熱）棟朝上等兵（マラリヤ兼脚気）中田上等兵（マラリヤ三日熱）富酒一等兵（脚気兼マラリヤ）のため第五十三師団第ニ野戦病院（ホピン）に入院

九

一

~23~

1802

年月日	概 要
	<p>同日浅野一守兵「ウントウ」第百五十三師団第四野戦病院へ入院のため「ピンウエ」出発以来行方不明となる。</p> <p>九月十二日児川上守兵脚気のため「サガイン」患者収容所へ入院</p> <p>九月十三日有藤上守兵急性大腸炎のため第百二十一兵站病院（明妙）へ入院</p> <p>九月十五日井上軍曹（脚気）川村伍長（マラリア兼脚気）伊藤一守兵（マラリア兼脚気）のため第百五十三師団第四野戦病院（ウントウ）へ入院</p> <p>同日橋本時兵長同病院治療退院</p> <p>九月十六日橋本一守兵「マラリア」のため第百二十四兵站病院（マンダレー）へ入院</p> <p>九月十九日竹中上等兵第百五十三師団第ニ野戦病院（ナンンマン）に於て「マラリア」兼脚気に依り戦病死</p> <p>「モーハン」附近の戦斗</p> <p>十月六日熊野軍曹「ピンウエ」に於て敵機機の銃掃射を受け頭部貫通銃創に依り戦死</p> <p>十月十三日谷口（与）一守兵は入院のため「ホピン」出発後行方不明となる。</p> <p>十月十六日宮川軍曹「マラリア」（熱帯熱）のため第百五十三師団第四野戦病院（ウントウ）へ入院</p>

の
内
ル
マ
二

十月十七日松本一等兵「左手掌蜂窩織炎」のため同右病院に入院
十月二十一日富酒一等兵「マラリア兼脚気」に依り第五十三師団第四野戦病院
（ウントウ）に於て戦病死
十月二十五日宮川軍曹「マラリア」（熱帯熱）に依り第五十三師団第四野戦病
院（ウントウ）に於て戦病死
同日佐久間一等兵治癒退院
十月二十八日橋本一等兵「マラリア」に依り第百二十四兵站病（マングレー）
に於て戦病死
同日青藤上等兵治癒退院（第百二十一兵站病院Ⅱ明妙）
十一月十日松本一等兵治癒（第五十三師団第四野戦病院Ⅱウントウ）
十一月十二日川村伍長「マラリア」（熱帯熱）に依り同右病院に於て戦病死
十一月十三日中田上等兵治癒退院（同右病院）
十一月二十八日井上軍曹「マラリア」（熱帯熱）に依り同右病院に於て戦病死
マラブラ）
十二月十六日青藤上等兵「アメバー」性赤痢兼「マラリア」（熱帯熱）に依り
第二師団第四野戦病院（アマラブラ）に入院
十二月十八日和田一等兵「マラリア」（熱帯熱）に依り同右病院に入院
十二月十九日同病に依り同院に於て戦病死

~25~

1804

年月日	概 要
昭一五、〇、五 三〇、一、一〇	同日森口一等兵「マラリア」兼脚気急性腸炎のため同右病院に入院。同日二十三日同病に依り同院に於て戦病死。十二月二十四日西尾一等兵敵機ノ投下爆弾を受け全身爆創に依り戦死（ミンゲ附近）。十二月二十七日羽川上等兵「マラリア」（三日熱）に依り第五十三師団第一野戦病院（ ）に入院。昭和二十年一月八日森崎一等兵（アマラブラ）に依り第二師団第二野戦病院に入院。
五、一、二三	「ピンウエ」の「オークトウ」附近の戦斗。右戦斗に参加中、部隊は十月三十一日「ピンウエ」出發「ナバ」を経「ナンカン」に転進。同地に着ル後師団輸送弾薬兵器処理に任ずると共に一部は兵器修理業務に従事（主として自動貨車）。
一三、一、八	同出發「アマラブラ」（マンダレー北方十二軒）に転進。
三、一、五	同地に着ル後兵器修理所を開設（主として自動貨車無線器）修理業務に従事す。
三〇、一、二三	加藤軍曹「マンダレー」に於て敵B29の編隊爆撃を受け全身爆創に依り戦死。

26

1805

一七

百藤上等兵「アマバー」性赤痢兼「マラリア」(熱帯熱)に依り第二師団第二野
戦病院(アマラプラ)に於て戦病死

一三五

前田上等兵、後藤上等兵「アマラプラ」に於て敵B29の編隊爆撃を受け全身婦
創に依り戦死

同日同爆撃に依り若山軍曹(左腰部軟部首貫爆弾破片創)足立上等兵(右後頭
部穿透性骨折首貫右遷指骨折左減爆弾破片創)夫々負傷し足立上等兵同日入院
若山軍曹翌二十六日入院(穿五十三師団第四野戦病院「マシダ」)二月六日早越上等兵「マ
ラリア」に依り第三師団第二野戦病院に入院。一月三十日 治療退院

一月十八日五十嵐軍曹「マラリア」に依り同右病院に入院

一月二十一日内貴兵長「マラリア」に依り同右病院に入院

二月二日足立上等兵前記負傷に依り戦病死

二月四日伊藤一等兵治療退院(第百五兵站病院「トンボ」分院)

二月六日 松本上等兵鼻咽喉「チフテリア」に依り第五十三師団第一野戦病院
に入院(ヤガンデー)

三月十四日内貴兵長治療退院(同右病院)

三月二十五日五十嵐軍曹治療退院(第百七兵站病院「エダシユ」)

「イラワジ」河畔並「メーカーテラ」附近の会戦

一七
一八
三六

年月日		概	要
昭三〇一五		部隊主力は中島中尉以下一部を「アマラプラ」に残置し師団命令に依り兵器修理所を開設すべく「アマラプラ」出發「ゼゴン」に前進同地に於て待機せるも翌二十五日「アマラプラ」は敵B29機の大編隊爆撃に依り前田上等兵、後藤上等兵戦死、若山軍曹、足立上等兵負傷セリ。	
二一		部隊主力は師団命令に依り「キヤウセ」附近に集結すべく「ゼゴン」出發「マングレー」に転進引続き「キヤウセ」附近に転進「キヤウセ」南方二十軒「ハミンボー」に集結、尔後同地に於て師団兵器彈藥燃料並兵器修理部品等の集積及保管交付並兵器修理（主として自動車無線機）業務に従事す。	
三三		水瀬曹長以下六名は師団兵器修理部品受領のため方面軍司令部（ラングーン）に出張のため出發す。	
三三		部隊主力は師団命令に依り兵器修理所開設の任務を以て「ハミンボー」出發、「ナトギー」に前進し葉紫伍長以下二十一名は兵器部谷山中尉の指揮を受け、同地に残留（編成表左記の通り）現在任務を続行す。	
		兵器勤務隊「ハミンボー」残留勤務員編成表	
一分隊	指揮班	兵伍長	下坂典一
		兵一等兵	石川儀一
		兵二等兵	中村定男
		兵三等兵	北村幸一
上等兵	兵伍長	小野藤三郎	
		兵一等兵	
		兵二等兵	
		兵三等兵	
松浦久郎			

四一四	末明葉紫伍長以下九名は自動車行單に依リ「ウインドウイン」東北方十三三料山麓「ヨゾン」を通過せんとする際同部隊の行動を予期せるもの如く突如敵地上部隊は迫重砲の集中射撃を浴びせ為ニ部隊は破損、運行不能となり内責兵長・梶川上等兵・石川上等兵は全身砲弾創に依リ戦死す。 内責兵長・梶川上等兵・石川上等兵「ヨゾン」附近に於て戦死	二分隊	上等兵	山田修一	四一分隊 内責九一郎		
		三分隊	兵伍長	寺島省三		兵上等兵 森田三郎	
		〃	兵上等兵	葉紫香取			〃 今西徳岩
		〃	兵二等兵	梶川繁喜			
〃	〃	寺井清雄	早越登				
〃	〃	森崎照政		清水隆			
〃	〃	高橋豊			喜多川一		
〃	〃	佐久間勉				〃	

99~

年月日	概	要
昭二〇、四、八	伊藤上等兵「ラインレット」に於て敵迫重砲の集中射撃を受け全身砲弾創に依り戦死	
二月二十八日「コラングリーン」出張の任務終了帰隊の途次に在りし水瀬曹長以下六名は「ピヤウベ」附近に於て敵の「メーカーテイラ」遮断に依り本隊との連絡不能となり尔後「ピヤウベ」防衛隊に於て服務す。		
此の間二月三十日五十嵐軍曹は「ピヤウベ」に於て水瀬曹長以下六名と合し尔后行動を共にす		
四月五日十時頃「ヤナウン」に於て敵戦闘機の銃直に依り秋野一等兵右下腿部貫通銃創を受く		
三、三 五、四 部隊主力は師団主力に追及の為三月二十二日「ナトギー」出發		
三、三 「ヤギンサチ」到着、師団との連絡成り師団命令に依り尔後現任地に於て弾薬兵器の輸送に任ず		
三、五 四、一 師団主力との連絡を断たれ之に追及の為同地出發迂回路を取りつ 「マライン」を経る		
四、五 「ヤナウン」に於て師団主力に追及す 水瀬准尉以下七名現任地に於て部隊に復帰す		

~100~

四一六	四月五日秋野一等兵敵機の銃重に依り負傷す（右下腿貫通銃創） 部隊主力は輜重兵連隊長の指揮下に入り行動を共にしつつ「ピンマナ」に向い 転進す。
四一三	「ピンマナ」到着、輜重兵連隊長の命令に依り部隊は「ピンマナ」並「トング」 に於て師団連絡所を開設することとなり、木瀬准尉以下七名は「ピンマナ」連 絡所要員として同地に残留、部隊主力は同地出発
四一四	「トング」到着、直ちに師団連絡所を開設
四一九	状況に依り連絡所業務を打切り同日「トング」出発
四二二	「シタタン」に向い転進
四二二	「ワウ」渡河点通過
四二三	「シタタン」到着、尔後現在地に於て師団主力の未着を待ちつつ所在の警備任 務を続行す。
	四月二十五日寺井上等兵「マリア」に依り第三十三師団第二野戦病院（カロ） に入院
	五月十日天谷上等兵治癒退院（第六六站病院「タトン」）
	六月二十三日松浦上等兵「ラグンビョ」に於て敵機関銃の集中射撃を受け胸部 貫通銃創に依り戦死
	同日島田上等兵同地に於て同状況のため頭部貫通銃創に依り戦死

年月日	概	要
昭二〇五 八~一五	<p>同日高橋上等兵同地に於て同状況のため胸部貫通銃制に依り戦死</p> <p>同日中田上等兵同地に於て同状況のため頭部貫通銃制に依り戦死</p> <p>七月七日山田上等兵 森田上等兵「マラリア」に依り寺嶋一等兵「急性大腸炎」に依り第百七兵站病院（バーハン）に入院 七月十一日山田上等兵治癒退院</p> <p>七月十四日森田上等兵「マラリア」に依り第百七兵站病院（バーハン）に於て戦病死</p> <p>同日森崎一等兵「マラリア」に依り第十八師団第三陸軍病院（ピリン）に入院</p> <p>七月二十五日山梶軍曹「マラリア」に依り第百七兵站病院（バーハン）に入院</p> <p>八月一日橋本兵長「マラリア」に依り第百五十三師団第二野戦病院（オークビジョン）に入院</p> <p>ヨーン）に入院</p> <p>八月七日山尾軍曹「マラリア」に依り第百七兵站病院（バーハン）に於て戦病死</p> <p>八月十三日中村一等兵「マラリア」兼脚気清水上等兵（脚気）に依り第百五十三師団第二野戦病院（オークビジョン）に入院</p> <p>「シンクタンク」会戦</p> <p>「シンクタンク」会戦と共に師団主力は「シンクタンク」河左岸地区に集結</p>	

102~

次期作戦準備行動中部隊は師団命令により「オークビジョン」(ミヨンガレ東北方十二軒)に位置し同地附近の警備に任ずると共に師団兵器弾薬の集積保管並之が交付に従事す。

水瀬進尉以下七名は「ピンマナ」連絡所勤務中なりしも敵の「ピンマナ」遮断に依り已むなく四月十八日未明「ピンマナ」-「レウエ」西方地区を迂回「ユウ」附近を経て「シヤン」州東方に於て敵中を横断「トングー」に転進、四月未日「トングー」より第二師団司令部と共に「モキ」街道四八哩地点より南下「シッタ」河左岸地区師団主力集結地に到着

「オークビジョン」(ミヨンガレ東北方十二軒)に於て部隊主力に追及す
中島中尉以下一部は「ミヨンガレ」に位置し師団兵器弾薬同質機等の集積保管業務に従事す。

八五

大命に依り戦行動停止
八月二十二日橋本兵長治療退院(第十八師団第三野戦病院チヤイト分院)
八月二十三日北村一野兵「マラリア」に依り第五十三師団第二野戦病院(オークビジョン)に入院

部隊名対照一覧表

保有部隊名 第五十三師団 兵器勤務隊	通称 安部 第三部隊	隊長名 山本部隊	備考 隊長 陸軍大尉 山本 茂雄 自昭和八年十二月一日至昭和九年自五日間
--------------------------	------------------	-------------	--

19
の
外

ビ
ル
マ
2

		昭十八十二一		年月日
部隊長 陸軍中佐 竹之下 四八		京都市久世郡富野荘村長池陸軍演習場		概
部 隊 編 成 表 (編成当時)		部隊編成完結		
担第三中隊	担第二中隊	担第一中隊	本 部	
陸中隊長 伊藤 英之	陸中隊長 藤田 正男	陸中隊長 西池 重次	中隊長 陸中隊長	
第一小隊長 陸少長 谷川 武雄	第二小隊長 陸少長 田村 泰三	第三小隊長 陸少長 西島 泰太郎	第一小隊長 陸少長 菅野 実	
指揮班長 陸准 西村 正直	指揮班長 陸同 田村 泰三	指揮班長 陸准 西島 泰太郎	指揮班長 陸准 菅野 実	
衛生部 下士官 兵	行 李 下士官 三兵	衛生部 下士官 兵	衛生部 下士官 兵	
指揮班 下士官 七兵 五	指揮班 下士官 七兵 五	指揮班 下士官 七兵 五	指揮班 下士官 七兵 五	

104

1813

21
0
91
ヒルマニ

一八三三

担架第一中隊長西池中尉以下衛生隊ノ3を師団の第一擧団長たる歩兵百二十八連隊長岡田大佐の指揮下に入らしめ出發せしむ。(第一部隊と呼稱す) 編成左の如し

車中	輜隊	第二小隊長	陸少	小川重政
	中隊長	指揮班長	陸曹	堀清右衛門
	陸中	第一小隊長	陸少	遠藤兵太郎
森忠生		第二小隊長	同	田附隆二
		第三小隊長	同	西垣兼男

一九三三

部隊主力は依然長池瀨習場に在りて教育訓練に邁進すると共に出陣を準備す。部隊主力は第三擧団長歩兵第百五十一連隊長橋本大佐の指揮に入り、師団主力に追及すべく三月二十四日〇四〇〇発軍用列車に依り長池出發す。〇九〇〇乗船宇品出發す(輸送指揮官 高見大佐)

第一部隊長	陸中中尉	担架の第一中隊長	衛生部 1/3	部長 小島軍尉中尉
西池重次		行李 1/3	分隊長 喜多伍長	
		車輛中隊	小隊長 田附少尉	

三三三

年月日	概	要
昭五四二六 五七	<p>昭南港上陸直ちに中兵營（北兵營舎）に入り期待す。 命に依り左記区分を以て緬甸に伺ひ前進す。</p> <p>部隊主力</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本部 2. 行 李 3. 衛生部 4. 担架才二中隊 5. 車輛中隊 <p>陸路列車輸送により師団主力に追及す。</p> <p>穿三部</p> <p>長 担架才三中隊長 担架才三中隊長</p> <p>伊 藤 中 尉 2. 行 李</p> <p>3. 衛生部</p> <p>4. 車輛中尉</p> <p>昭南―西貢―盤谷―北緬甸の師団主力に追及す。</p> <p>部隊は北緬「タウンニー」師団司令部に到着。西池中尉の指揮する先遣隊一部 の任務を継承すると共に第一部の編成を解く。</p> <p>部隊は新等二部（担架才二中隊長 藤田中尉以下六十名）を歩兵第百十九連隊</p>	<p>2/3 欠</p> <p>2/3 欠</p> <p>2/3 欠</p> <p>ニヶ小隊欠</p> <p>1/3 長 原池軍曹</p> <p>1/3 長 松永軍医中尉</p> <p>1/3 (第一小隊)</p>

706

七、下

に配属し主力は「ナニグワ」に位置し第一線百二十八連隊並に青部隊方面の患者の収容後送に任ず。

師団命令により一部兵力を左の如く派遣し患者の転送に任ず。

1. 西垣少尉を「タウニー」より同地駅迄の患者の搬送に

2. 紫田中尉以下を「ナムクイン」患者集合所に、

3. 奥村軍曹以下を「ホピン」破壊橋より2FLの患者の搬送

当時雨期の最高頂に期し戦場一帯泥濘と化し且、諸補給、意の如くならざる中を激制空権下の暗殺行動し之戦力の低下漸く甚だし、されど部隊は部隊長を核心とし上下一致団結死力を尽して第一線患者の収容後送に任ず。

八、五

「ピンボ」・「ホピン」附近に転進し待久を厭すべく師団命令に依り第一線部隊夫々患者収容、班長以下二十名を配属し主力は七日夜収容せる患者に拘き光す「ホピン」に向い転進す

八、一〇

部隊は「ホピン」北方六軒「ナムクイン」河南岸に位置し「ナムクイン」患者集合所を患者転送の命を受く、敵は鉄道線路に沿ひ攻車の重点を指向し我が糧倉漸増し「ナムクイン」又敵砲火に曝されつつ水深胸を汲する「ナムクイン」河を渡河十一日より三日間に三百数名の患者を収容し「ホピン」に転送す

八、一六

部隊は「ホピン」転進し同地に於て鉄道線路並に主要道路沿線部落の残留患者の搜索の収容死者の処置の命を受け「モーニン」に向い行動す、此の頃師団は

年月日	概	要
昭二九 九 一	<p>「モーハン」附近に於て持久を命ぜられ歩兵隊百二十八連隊、歩兵隊百十九連隊の師団主力は「モーハン」附近の陣地構築に任ず</p> <p>「モーハン」通過時を以て藤田隊は部隊復帰（百十九連隊に配属中）部隊は命に依り左記部署を以て「モーニン」「モール」間の患者の転送第一線患者の収容に任ず</p>	<p>1. カド 附近 車輛中隊基幹 森中尉以下四五名</p> <p>2. モーハン附近 担架隊二中隊基幹 藤田中尉以下</p> <p>3. ナンシヤン附近 部隊主力</p> <p>4. モール 附近 第三部 伊藤中尉以下</p>
五	<p>十月上旬以来「カーガ」附近に敵の行動活発し師団は¹¹⁹²を同地に急派し、師団右翼方面の掩護に任せしむ</p>	<p>歩兵隊百十九連隊は「ピンウエ」附近に転進す</p>
一〇三七	<p>部隊は「モーハン」附近に位置する伊藤中尉の指揮する担架隊三中隊を基幹とせらるゝのを歩兵隊百二十八連隊に配属す。此の頃（一〇三〇）敵の攻勢熾烈化し第一線は逐次抵抗を以て「ピンウエ」の線に転進すると共に同地の確保に任ず</p> <p>「ナバ」に転進し患者の収容の準備をなす</p> <p>九月二十五日頃師団は緬甸方面軍の隷下に入り十月五日第三十三軍（昆集團）</p>	

108

1817

の指揮を離れ第十五軍の指揮下に入る（林集団）当時十五軍は「インパール」戦線より転進中にして師団当面の戦況は重大なる影響を及ぼすべきを以て軍は最後返「ピンウエ」陣地の確保を期待す。十月末「パール」に於て第三部隊は復飯す。

二二二

部隊は「ピンウエ」附近に前進し主力を以て右翼隊方面の一部を以て（森中尉）「オークトウ」に位置せしめ左翼隊方面の患者の收容に任ず。

二二三

英印軍三六師団主力は逐次我が第一線陣地正面に攻重し来るも第一線の敵斗により其の初度之を惠退す。

二二六

敵の攻勢更に熾烈を極め第一線の死斗言語に絶し死傷激増す。部隊は連日不眠不休弾雨を浸し第一線を馳駆し患者の收容に勉むるも昼夜を分たざる敵機の活動に依り行動極度に制限ざるも死力敵斗克く任務を遂行す。

本戦闘間收容せる患者 約五〇〇名

本戦闘に参加せる人員 約

二二七

命に依り福沢部隊に北垣少尉以下の一部を附し主力は「ナバ」に転進に後命を待つ

二二八

「インドウ」東南六料「ナナウン」に患者收容所を開設第一線の患者の收容「クンバウン」FLへの後送に任ず。又左の如く歩兵各部隊に約1/3を配属し転進間に於ける患者の收容搬運に任せしむ。転進間に於けるFLの配置左の如し。

年月日	概要
昭一九三二七 二〇一八	部隊主力は歩兵百二十八連隊長の指揮下に入る。 「テジヤイン」に「イラワジ」河を渡河し「マングラレー」に向い南下す。 「マングラレー」王城北側に集結す。師団は單「イラワジ」河畔会戦計画に基き「メークテイラ」附近に集結を準備す。
一〇	穿十五師団（祭兵団）「シング」及其の北方地区に於ける敵の渡河企画濃厚となりしを以て急振反転して「マダヤ」附近に集結。反撃を準備す。 部隊は列車輸送にて「マダヤ」に前進。後行軍を以て「マクエダヤ」「コツコ」師団主力に迫及す。
一四	夜、敵の一部は「シング」北方「ナベイン」附近（祭兵団地区）に於て渡河。攻進し、穿十五師団の一部を併せ指揮して之を退却すべき軍命令を受領す。此の頃より「ナベイン」「インエシン」「クレ」の各地に連戦展開す。部隊は此の間穿一線に進出す。自動貨車、牛車等を利用して患者の收容後送に任じ、以て第一線の戦いを容易ならしめたり。
二一	師団は穿十五師団と其の任務を交代し「キヤウセ」地区に機動す。伊藤中尉以下担架穿三中隊基幹は二月二日「コツコ」出發。歩兵穿百二十八連隊と共に機動す。
三	歩兵穿五十一連隊の機動と共に穿一線を撤し、部隊主力は行動を以て「ピンレイ

~110~

三二二	ン」に集結、自動車輸送を待つ。
三二三	「タメ」に集結す。「イラワジ」河右岸の敵は軍の中央兵団たる第三十一師団の「ミンム」方面に於て主渡河を企画しあり。
三二四	師団は軍命令に依り「ミヨサ」附近に前進待機することなり。
三二五	部隊は「クメ」出発、自動車輸送を以て「タウンタ」東北方四料「ペキンギヤウ」に位置し穿一線患者の収容「スボンロー」2FLへの後送に任す。
三一六	敵後統兵団は戦車を主体として連日六七六高地に攻襲し来るも穿一線たる歩兵百五十一連隊克く奮戦して其の杞慮之を重退す。
三一七	陣地の重点たる△一七八高地に敵一部侵入し来る。
三一八	夜襲に依り之を奪回し敵に殲滅的打撃を与えり十三日我が左翼の拠点たる△六七六高地は守兵の死守にも拘わらず敵戦車のため突破せられ又我が右翼は敵三十三師の機甲部隊の「ミンジヤン」方面より包圍攻重を受ける。
三一九	苦戦其の極に達し対戦車火砲の大部を喪う等の状況下に於て連日唯一の輸送機関たる牛車を活用し遺棄なく克く穿一線患者の救出後送を完了し以て各部隊の戦斗を容易ならしめたり山本貞夫兵長裨在たる状況下決死の活動克く命令伝達の大任を了し部隊の任務達成を遺憾なからしめ師団長賞詞を受けたり。
三二〇	夜転進命令を受領し「マライン」を経ず。
三二一	「ヤナウン」に達す。

年月日	概	要
昭三〇・四・八	「ヤナウン」に於ける敵機用部隊の阻止不成功の爲師団は転進を開始す。部隊の收容せる患者十数名を護送しつつ転進	
四一七	「ピンマナ」に於て2隊に後送す	
四一八九	「ミンデ」河の線を占領敵を拒止す	
四二四	部隊は「ピンマナ」に位置し患者の收容に任す。其の後左の如く転進 「トング」東方十二哩道標に達し一時察兵団の指揮下に入らしめられ師団の到着を待つ	
四二六	師団に復讞す	
四二九	軍命令に依り33A、53D、49Dの順序に「シツタン」河左岸を南下することとなる 部隊は第三十三軍直轄となり180、33Aの転進間に於ける患者の收容を命せられ軍々 医部長島大佐の指揮に入り「シツタン」河左岸山地道を南下す。険悪なる山地 道のため牛車の運行意の如くならず又地図粗漏のため地名の地点の判定充分 ならざる状況下凡ゆる創意工夫を凝し患者の收容後送を完了	
五二〇	「チヤイト」に於て師団復讞を命せらる	
五二四	「サロギー」に達し患者收容準備をなす。師団は尔後「シツタン」河岸要点を 占領す。臨時歩兵第一中隊西垣中尉以下六〇名「クンゼイク」に在りて搜索隊 長の指揮下に在りて陣地を占領す。部隊は「ウインガン」に位置し「カイウエ	

七三〇
八一五

「サロギー」方面の第一線患者の收容「アウクシビヤウン」²⁴への後送を実施す。七月上旬行へる師団の「ミイチヨ」攻略に際し藤田大尉以下三十五名（担架隊二中隊衛生部）を歩兵隊百二十八連隊に伊藤中尉以下（担架隊三中隊衛生部行季）を歩兵隊百十九連隊に西池大尉以下（担架隊一中隊衛生部）を歩兵隊百五十一連隊に夫々配属し部隊主力は「カイウエ」東南方地区に備帯所を開設し患者の收容に任す。混地泥濘地の收容とて大なる労働を要せしむ各部隊長以下克く奮斗し患者の救出に遺憾なきを期せり。十六時三〇分敵機の銃攻重に依り竹之下部隊長戦死し西池大尉代理すると共に第二十八軍（旅業団）の歴史的兩期大転進を收容中。大命に依り戦斗行動を停止す。

~13~

ノの外ビルマ

中五三師團中一野戦病院

年月日	概要
昭八、二、二	部隊編成完了日及び編成地
一、二	京都府久世郡淀競馬場（編成担任部隊、歩兵中一八連隊、中隊中三七部隊）
一、三	部隊は、淀競馬場に次ぎ
五、三、二	久世郡宇治町宇治レーオン工場内に撤営し、其の周教育訓練に邁進す 師団後方指揮官の命令に依り、中四師團となり、愈々待望の師団に追及すべく 部隊長寺本軍医大尉以下二四〇名
	（編成定員二四二名を凡共、下士官一 兵一 を歩兵中一八連隊残留人員、医務兼掌のため同隊に派遣す）は
三、三	廠舎出発輸送指揮官歩兵中一五一連隊長、橋本大佐の指揮に入り
三、六	宇治港に於て、御用船摩耶山丸に乗船
四、天	同日、同港出帆長途の危険海面をも無事航行 昭南に上陸す 当時師団は、緬甸方面中三三軍の指揮下に在りて、「モール」附近に降下せる敵空艇部隊を攻撃すべく北緬に前進中なり 部隊は師団追及を命ぜられたるも緊急輸送部隊の輸送輸送の急

115

年月日	概要
昭和五 年 五 月 八	不取敢、衛生材料及び重要材料を輸送すべく、伊藤兼利中尉以下三三名を捜索連隊長、與仲少佐の指揮下に入らしめ先行を命じたり、尚、佐藤英技軍曹以下三一名を自動貨車受領のため、歩兵第一五一連隊 橋詰中尉の指揮下に入らしむ
六 二	部隊主力は、昭南にありて南方における諸種の教育訓練に邁進す
六 六	漸次計画樹立し、昭南港を出帆（御用船平安丸）
六 六	無事仏印面貢に上陸す
六 二	面貢出発「フアンペン」より列車輸送に依り
六 五	仏印泰國境通過
六 天	盤谷に到着す
六 七	愈々、緊急輸送を以て盤谷出発、 泰緬鐵道に依り
六 三	泰緬國境の通過
六 三	夜半「モールメン」に到着、同地に於て歩三三連の指揮下に入らしめたる、同月二十四日「モールメン」発「パタ」を経て、同月二十七日「マンダレー」に到着す。同地に於て、材料輸送のため先行の伊藤兼利中尉以下三三名及自動貨車受領のため昭南に於て、歩兵第一五一連隊橋詰中尉の指揮下に入らしめたる佐藤英技軍曹以下五名を掌握せり。同地に於て当時明妙に在りたる歩三三連司令部との連絡の結果、部隊は暹羅と在り、海に「カーサ」に至り「インド」臨時兵站病院力「カ」分隊

ノカ丸ビルマ

116

年月日	概 要
昭 元 七 九 七 五	<p>本院は、^東「ウントウ」に在りて、病院長ヲ五三師団ヲ四野戦病院長軍医少佐後藤（保）を開設すべき命令を受けたり、依而緊急開設地に向い出発すべく、諸機関と連絡せるも輸送輻湊しありて意の如く不成</p> <p>漸く「マングレー」出発、「サザイン」を経て</p> <p>「インドウ」に到着す、</p> <p>而して、部隊は、長日月に亘る輸送を完全に終え、待望の師団追及を急ぎつ、ありたるも前途の如く軍直轄となりたるため「インドウ」より逐次「カーサ」に部隊を集結し、</p>
七、 五	<p>同地に於て、部隊本来の任務たる初めての病院開設を兎より</p> <p>当時師団は「ホピン」附近に転進し、持久を策しつつありたるも敵は、鉄道線路沿いに攻撃重点を指向し、我が損傷漸く多く、加え緬甸特有の大雨期のため</p> <p>「マラリヤ」、「アメーバ」性赤痢等を始め、悪疫疾病続出し、開設早々収容患者常に千余名を算するに至れり、ホ「インドウ」分院に在りても、前線より、後送患者殺到し、收拾困難なる状態にありて、部隊は、えれが業務援助の爲</p>
七、 五	<p>岡本軍医中尉以下ニ二名を同分院に派遣せしめたり</p> <p>「ウントウ」本院命令に依り、部隊は前記業務援助員を以て、新たに「インドウ」市内に患者療養所を開設せしめ、其の一部をして患者誘導班を編成し患者</p>

年月日	概 要
昭五 八 月	<p>後送の迅速化を図りたり、然るに「カーサ」に在りては、以降、菊兵团の同地附近集結に伴い敵機の攻撃漸く本格的傾向となり部隊は、之れが被害を考慮し、菊兵团と交渉の結果「カーサ」東方約一〇料「ナバ」菊兵团司令部隊を譲受け、不敢取、重症患者を同地に收容すると共に、軽症者の迅速なる後送を実施せり、此の頃、師団は「モーバン」附近に於て持久を命ぜられ</p>
八 月	<p>頃より歩兵一二八連隊を同地に転進、陣地を構築せしむ師団主カは逐次「ピンボ」附近のカー線を「ホピン」「モーニン」「カド」河に於て、逐次、抵抗しつゝ</p>
九 月	<p>頃「モハン」陣地に転進す、ホ「カーサ」病院にありては、患者の收容並に後送業務益々繁忙を極め、而も病院位置は「インドウ」よりニ〇数料「ナバ」より一五料の遠隔地に在りて、更に通ずる道路は処々崩壊し、亦、途中の河川は降雨時増水氾濫し、之れが為、自動貨車の通行不能となりて、常に患者の輸送業務に多大の支障を来せり、尚、之に加え、同地は</p>
八 月	<p>より敵航空機の銃爆撃の愈々熾烈の度を加え残存家屋の破壊企画を窺る情況下甚なりたるを以て曩に重症患者の転室を図りたる菊兵团司令部隊に</p>
九 月	<p>より逐次病院の移動を行ひ</p>

年月日	概	要
昭五 九 二〇	移駐を完了す	
九 七	此の間、部隊は筆直を解かれ（八月二十五日付）野炊をせし三師団第一野戦病院に改む	
九 二	「ナバ」に移動後直ちに一部兵力を以て、患者護送隊の編成を命ぜられ「ピンウエ」―「サガイン」間の患者後送を担任せしめられ、之れが為、島田軍医中尉以下一八名を「ピンウエ」に岡本軍医中尉以下二五名を「メザ」に夫々派遣す	
九 二	然るに「メザ」以南の鉄道は敵機の爆撃に依り、輸送業務特に輻輳を極めつつありて部隊は患者収容の適正並に後送業務の円滑化を図らんが為、患者護送隊要員を以て	
九 二	「ピンウエ」に	
九 二	「メザ」に夫々患者療養所を開設せしめたり、尚、同所要員の一部兵力を以て師団命令に依り、九月二十五日迄「ピンウエ」―「メザ」間の鉄道沿線及び、主要道路附近に於ける屍体搜索並に、患者の収容に任ぜしめたり、亦	
九 二	部隊は「ピンウエ」患者療養所―「ナバ」病院―「メザ」患者療養所間の中継業務並に、独歩患者の単独後退防止対策として「ナバ」駅附近に患者集合所を開設し大谷軍医中尉以下二名を同所に派遣す	
九 二	中略	

~172

年月日	概 要
昭和 六、七 六、七	<p>概 要</p> <p>本隊部隊は、島田軍医中尉に所要の兵力を附し、戦時司令部に連絡の爲、先行せしむると共に、主力は「イビリン」出發</p> <p>「イミヨングレート」に到着す</p> <p>此地に於て、島田軍医中尉連絡の結果、部隊は後命を待ち、同地に待機を命ぜられたり、爾後師団命令に依り同地野戦倉庫勤務として、鍋谷伍長以下二一名及び師団勤務に山口軍曹以下二一名を派遣せしめるの他、師団牛車受領のため萩原軍曹以下一五名を「イタトン」に派遣する等部隊実働兵力の大部を隊外勤務に派遣し、尚、爾余の人員を以て</p> <p>同地に開設中の「カニ野戦病院」患者集会所の業務を継承し病院を開設せり</p> <p>尚、部隊は「カニ八軍（策集団）」の大転進に伴う患者の収瘥を命ぜられたるを以て「エガ」最前線の収瘥機肉として「ドンゼイ」及び「ウインガン」の二ヶ所に患者集会所を開設「ドンゼイ」集会所 中川軍医中尉以下二五名を「ウインガン」集会所には、白川軍医中尉以下二五名を夫に派遣し、「カニ」線の救護、給養に任ぜしむ</p> <p>本隊にありては、残余の僅少なる突動員を以て施設の整備強化を図り、患者の適切なる収瘥に努むる他「イミヨングレート」―「チャイトウ」間の患者の護送を担任せしめられたるを以て、元来が、業務の処理に日夜の別なく任務遂行に</p>

720

年月日	概要
八、五	<p>遼進中 大命に依り、戦闘行動を停止せらしめたり 然れ共、衛生機関の引続き業務続行を命ぜられ、而も、此の頃より、策集団患者の収容、日々に増加し、愈々、本格的となりて、停戦後、益々繁化を極めたり</p>
九、三	<p>病院を閉鎖す</p>
九、五	<p>師団集結地たる「タトンス」に至り、爾後、部隊は、師団主力と行動を共にす</p>
	<p>歳参考 部隊編成人員及び装備別紙中に記載す</p>
	<p>志参考 本略歴記載期間に於ける病院開設並に患者療養所、患者集会所の開設場所及び期間別収容患者及び転飯別一覽表別紙中に記載す</p>
	<p>別紙略</p>

少五三師団少二野戦病院

陸軍軍医大尉 板東保

年月日	概	要
昭和 一 一 二	<p>編成完結 編成地、京都 行動の概要、別紙記の通り 尖出身（府県名） 京都府、三重県、滋賀県、福井県 編成装備の概要 編成時充足人員 二四二名 主要兵器 乗用自動車 一 主要衛生材料 病院医校 二組 隊医校 一組 行動の概要 編成完結に伴い、部隊は京都淀鏡馬場及び宇治廠舎に在りて待機、各種教育訓練に従事す 屯営出発</p>	<p>小銃 四七</p>

この外はルマ

了の外ビルマ

年月日	概	要
昭和五 三 六	辛島港出帆	
四 天	昭南上陸	
五 八	昭南出發	
五 九	馬泰國境通過	
五 五	泰緬國境通過	
六 八	「サガイン」州「ピンウエ」に到着す	
	右の同一部を以て、自動車輸送の爲、昭南より海路西貢經由一部を以て陸路馬	
	未半長途由 緬甸に向い前進せしむ、右は何れも	
	「マンタレー」に到着、	
	其の大部は、中五三師団集成自動車中隊に配属残部は、部隊主カに復帰す	
	部隊主カは「ピンウエ」に到着と同時に「ミッタナ」及び「モガウン」附近に	
	て戦斗中の師団主カに追及、爾後、断作戦より盤作戦の初期に亘り「ミッタナ」	
	に没り、遂次、病院を開設し一野戦病院として左の如く患者の収療後送に従事	
五 七 七	「サイモ」 愈	患者 五〇〇
五 七 八	「タウンニ」 愈	一ニニ〇
五 八 八	「ピンボウ」 愈	三三〇
五 八 八	「ホビン」 愈	三五〇

~123~

1831

昭 和 元	年	月	日	概	要
〇〇	二〇	〇九	〇九	イ レ ウ L	患者 二五〇
〇〇	二〇	〇九	〇九	イ カ ド L	患者 一五〇〇
〇〇	二〇	〇九	〇九	イ ホ ロ ン L	患者 三〇〇
〇〇	二〇	〇九	〇九	イ ナ ン シ マ ン L	患者 一〇〇〇
〇〇	二〇	〇九	〇九	イ モ ー ハ ン L	患者 五〇〇
〇〇	二〇	〇九	〇九	イ イ ン ド ウ L	患者 三〇〇
〇〇	二〇	〇九	〇九	イ ナ ン シ マ ン L	患者 五〇
〇〇	二〇	〇九	〇九	イ ア マ ラ プ ラ L	患者 一五〇〇
〇〇	二〇	〇九	〇九	イ ミ ン ゲ ー L	患者 二五〇
〇〇	二〇	〇九	〇九	イ テ ゲ ヤ イ ン L	患者 五〇〇
〇〇	二〇	〇九	〇九	イ タ ガ イ ン L	患者 五〇〇
〇〇	二〇	〇九	〇九	イ タ ガ ウ ン L	患者 五〇〇
〇〇	二〇	〇九	〇九	イ タ ガ マ イ ン L	患者 五〇〇
〇〇	二〇	〇九	〇九	イ タ ガ ウ ン L	患者 五〇〇

概
 作戦中期に至り、先づ中二半部を以て「マンカレ」(南方一〇料アマラ
 ラ)に至り、全を崩設(一、九、二、八、一、九、二、三、〇)せしむると共に
 (この間に半部は、兵站衛生隊長の指揮下に入る) 次で、一、二半部共夫々
 左の如し「イラウシ」河に沿い病院を崩設、兵隊患者を収療後送仕す

~24~

年 月 日	概	要
昭和 四 八	ミングー シュピー タガゼ	患者 三〇〇
昭和 三 九	附二〇、一、九 に復帰す	歩五三師團集成自動車中隊に配属中の人員並に自動車本隊
昭和 二 九	次で「イラワタ」 マンタレー 「ピンレイン」 「ゴツコ」	「イラワタ」 河群及び「イメークテラ」附近の会戦の初期に於ては、 「マンタレー」 「シングー」 間に於て、左の如く病院を開設せり 患者 五〇〇 患者 三〇〇
昭和 三 八	同会戦の中期以降終期に至る迄 如く病院を開設す	「イミヨサ」及び「タウンタ」地区に於て、左の
昭和 三 八	「チゴン」 「オボンドウ」 次で、「イマングレー」	患者 三〇 患者 一四〇
昭和 四 八	充作戦中「ヤメセン」より「ピンマナ」 「ワウ」を経て「チャイト」方面に転進す 「カンベ」 「レウエ」	南方に亘り、左の如く病院を開設後 患者 五〇 患者 一〇〇

年月日	概 要
<p>昭和二十五年八月二十五日</p>	<p>「シットタン」会戦の初期一時「チャイト」に於て、FL 開設（二〇、五、二五）に於て、FL を一部を以て、兵團患者と共に策集開関係の患者を収容し、終戦に至る</p> <p>「アウクゲビアン」 患者 一七〇 「メヨンガレ」 患者 一〇〇</p> <p>終戦</p> <p>連合軍「ペアデー」収容所に入所 連合軍施設による「ペアデー」日本軍患者収容所開設（二〇、九、二五—二〇、九、二九）（部隊長以下五一名）</p> <p>連合軍作業に従事（持校以下八三名）</p> <p>連合軍「カイン」収容所に入所 持校以下 八三名）</p> <p>持校以下 八三名</p> <p>連合軍作業を「ラングーン」に於て従事</p> <p>連合軍「コワイン」収容所に入所（部隊長以下五一名）</p> <p>連合軍作業に従事（部隊長以下一三四名）</p> <p>シンカラドン中央病院開設業務に従事（部隊長以下一三四名） 連合軍「アール」収容所に入所</p>

126

4の外ビルマ

年月日	概	要
延三、 七、九 七、九 七、三 七、三	連合軍作業に従事 ラングーン港出帆 佐世保港上陸 解散	(部隊長以下一〇九名)

424r

1835